

先進的介護の実現に向けたこれまでの取組み

【取組みの方向性】

【北九州市のポテンシャル】

- 医療・保健・福祉関係者の経験と実績
- モノづくりの都市として発展
- 学術研究機関の集積

【課題】

生産年齢人口の減少や介護現場の労働環境などによる介護職員の離職等を背景とする
介護人材の確保・定着の促進

【国家戦略特区制度の活用】

介護施設において共同生活室を2ユニットで一体的に利用した環境での介護ロボット等の導入

“介護ロボット等を活用した介護現場の新たな働き方モデルの構築”

介護ロボット等を活用した介護現場における導入実証

平成28年度

★介護現場の見える化

- ・産業医大との連携による作業分析
- ・介護作業を270項目に細分化
- ・リハ職による介護作業の観察

平成29年度

★介護ロボット等の導入実証

- ・現場の課題に応じた機器の導入
- ・介護ロボット等の導入効果の測定
- ・介護ロボット等の改良、開発支援

平成30年度

★モデルづくりのための実証

- ・移乗に関する介助マニュアル作成
- ・地域人材（高年齢者等）の活用検討
- ・弾力的な人員体制の検討

★人材育成（介護ロボットマスター育成講習の開催）

これまでの成果と課題を踏まえた「北九州モデル」の具体化

先進的介護の「北九州モデル」（人とテクノロジーの融合による新たな働き方モデル）の構築

～介護職員の負担軽減・介護の質の向上を図り、介護施設の生産性を高める～（令和元年度実証）

< 北九州モデルの構築に向けた3つの視点 >

介護職員の業務整理

- ・介護職員が担うべき業務とそうでない業務の整理
- ・アウトソーシングの実施

職員の専門性の向上
働き甲斐の向上

ICT・介護ロボット等の効果的活用

- ・効果が見込める機器の導入
- ・「記録」を中心とした機器の連携

業務の効率化
職員負担の軽減

弾力的な人員配置

- ・需給バランスがとれた勤務体制
- ・地域人材の活用

職場環境の改善
介護人材確保の促進

北九州モデル(実証仮説)の実証

業務課題に対する解決策のマッチングを行った上で、「人員配置及びタイムスケジュールの精緻化」、「ICT・介護ロボット等の活用業務に対する機器の導入」、「周辺業務への外部人材（介護助手）の活用」を実践。

① 複数の見守りセンサーを組み合わせることによる、職員の負担軽減と利用者の安心・安全に配慮した見守り

【導入機器等】



バイタル生体センサー
株式会社コーポレーション



Neos+Care
株式会社リッツ・レジジョン

＜整備状況＞

- ・2種類の見守りセンサーを全居室に設置
- ・Wi-Fi環境を整備

＜期待できる効果＞

- ・夜間の定時巡視の削減
- ・どこにいても利用者の様子を把握できる安心感
- ・転倒に繋がる行動の早期発見と対応
- ・利用者の睡眠やプライバシーの確保

② 移乗支援機器等の活用による抱きかかえない移乗ケアの提供

【導入機器等】



SASUKE
マッスル



浴室リフト・天井
走行型リフト
ハンディケア

＜整備状況＞

- ・機器動線に配慮した活用(SASUKE)
- ・職員の意見を取り入れて独自導入(リフト)

＜期待できる効果＞

- ・腰痛予防
- ・年齢や経験に関わらず一人で移乗介助を行える
- ・機器使用時に利用者とのコミュニケーションを取れる
- ・抱えられる痛み等の軽減

③ 安心・安全な環境づくりと高齢者の活躍

【導入機器等】



インカム



外部人材
(介護助手)

＜整備状況＞

- ・施設全体で情報共有
- ・周辺業務のアウトソーシング

＜期待できる効果＞

- ・職員間で随時情報共有できる安心感及び業務効率化
- ・事故発生時の対応迅速化
- ・アウトソーシングによる負担軽減と専門性の向上

④ アプリの集約による利便性向上と利用者のQOL向上等を目指した介護記録システム・見守りセンサーのプラットフォーム化

【導入機器等】



ケアカルテ
株式会社富士データシステム



プラットフォーム
パナソニック株式会社

＜整備状況＞

- ・介護記録データや見守りセンサーデータを自動集約できる環境整備
- ・1つの端末にアプリを集約

＜期待できる効果＞

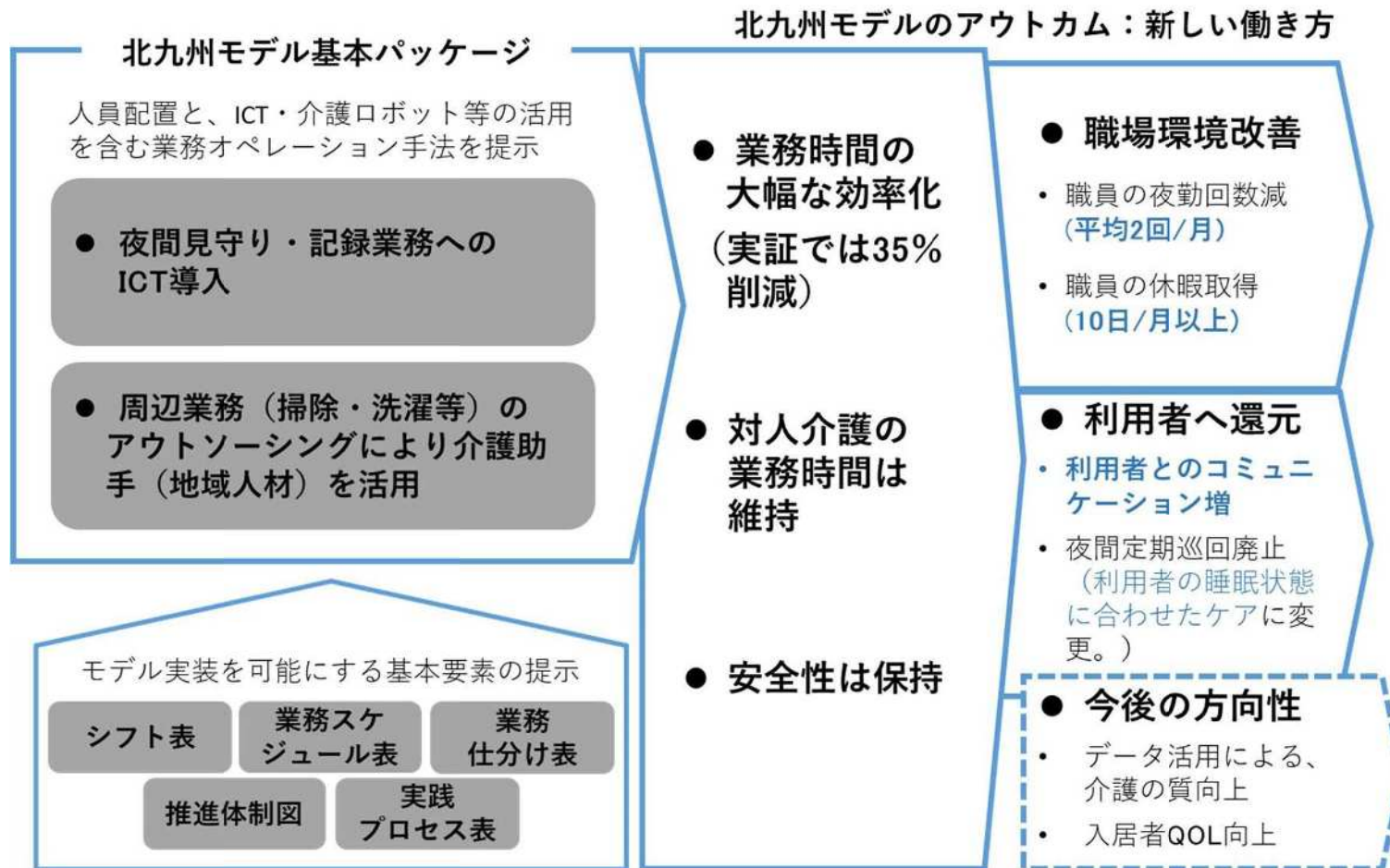
- ・見守りセンサーデータの自動記録による記録時間の削減と情報精度の向上
- ・複数の端末を所持する状態の解消
- ・集約したデータの分析・活用によるケアの質の向上

実証施設：社会福祉法人春秋会 特別養護老人ホーム好日苑大里の郷

実証期間：令和元年9月1日～12月7日（約3か月間）

介護ロボット等を活用した介護現場の新たな働き方「北九州モデル」の全体像

ICT・介護ロボット等の活用を含む業務マネジメントと弾力的な人員配置をパッケージ化した、介護現場の新たな働き方「北九州モデル」を実践することで、介護の質を保持しつつ、職員の働き甲斐の向上、介護現場の生産性向上を同時に実現することが可能となる。（国パイロット事業で行った実証で確立）

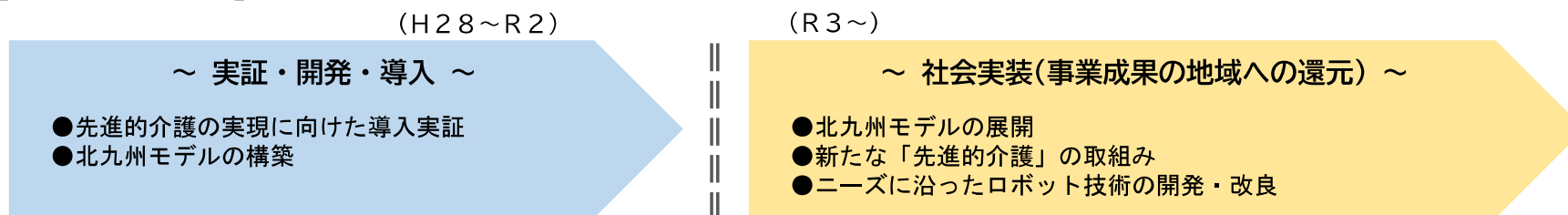


大幅な業務効率化・負担軽減と介護の質を維持しつつ、「2.87:1」の人員配置(生産性向上)を実現

今後の取り組みの方向性（案）

介護現場の新たな働き方「北九州モデル」の展開等により、介護の質向上及び生産性向上を地域のサービス全体に波及させるとともに、より質の高い介護サービスの提供等に資する新たな先進的介護の取り組みや、現場ニーズに沿ったロボット技術の開発・改良等に総合的に取り組む。

【取り組みのフェーズ】



【これまでの取り組みの内容・成果】

(1)介護業務の見える化

介護業務の作業観察・分析により、介護現場の全体像や課題を把握

(2)介護ロボット等の導入実証

- ・作業分析結果を踏まえた導入実証(H28~H29)
- ・移乗介助に関するマニュアル作成、効果的な人員配置の検証(H30)
- ・介護現場の新しい働き方「北九州モデル」の実証仮説の検証(R元)

(3)先進的介護の「北九州モデル」の構築

介護ロボット等を活用した介護現場の新たな働き方「北九州モデル」の構築(R元)及び横展開に向けた方策検討(R2)

(4)介護ロボット等を使いこなす専門人材の育成

本市独自の人材育成手法として確立した「介護ロボットマスター育成講習」を開催(H29~)

(5)介護ロボット等の開発・改良支援

導入実証の事業効果の最大化を図るため、FAIS内に「北九州市介護ロボット開発コンソーシアム」を設置(H28~)

横展開
支援体制づくり
対象拡大

北九州モデル
普及に向けた
環境整備

実証から見え
てきた新たな
課題

ニーズに沿った
開発支援
対象フィールド拡大

4

【新たな取り組みの方向性】

●北九州モデルの展開

- ・介護施設等における北九州モデル等を活用した職場改善を推進する相談支援拠点の設置
- ・円滑な施設運営を支援するための環境づくり など

●新たな「先進的介護」の取り組み

- ・ケアの質の向上のための介護記録データの有効活用
- ・テクノロジーを活用した感染症予防に資する働き方の検討 など

●ニーズに沿ったロボット技術の開発・改良

- ・現場のニーズに沿った介護ロボット等の開発・改良
- ・介護施設が実践しやすい介護ロボット等導入の仕組みづくりの検討 など